

# 北京書店巡り

栗山千香子

北京に暮らして早いもので2年10か月になる。大学が多い学院地区や北京図書館から遠いところ（建国門外）に住んでいるため、研究者と会ったり資料を調べたりするには不便を感じる人が多い。一方自転車をこいで胡同を巡りながら市民の日常生活をかいま見たり、猛スピードで進む都市建設（当然破壊を伴う）を目の当たりにしたり、映画館や劇場、美術館、コンサートホールに立ち寄ったりと、街の中心部に住んでいるからこそできることもある。ここ数年で北京の街はかなり様変わりしたが、足の主役はやはり自転車。自転車での街角ウォッチングは例えば東京の中心部では難しいだろうから、この北京ならではの楽しみを逃す手はないと、風のない日にはできるだけペダルをこいで出掛けるようにしている。

ところで北京の本屋さん。散歩がてら義務感のようなものから時々覗いてみるものの、品揃えも陳列も対応も悪く、目と足が疲れる割には収穫が少ないので次第に素通りすることも多くなっていった。ところが昨年、風入松書店をはじめとする‘学人書店’（通俗本ばかりで好い本が見つげにくくなったと嘆く研究者や学生をターゲットに、人文・社会科学系の学術書等を揃えた書店。経営者も研究者出身のことが多い。2日5日付『北京青年報』によると、北京にはすでに40数店あるという）が次々とできて話題となり、また年末には中国美術館近くに大型で洗練された店舗の韜奮三聯図書中心がオープン、従来の新華書店型中国の書店に対するイメージを大きく変えてくれた。90年代前半の中国のキーワードが「市場経済」（それも適切に機能していない投機的なバブル経済）或いは「人文精神の危機」（人文科学系研究者や作家を中心に93年から約3年間続いたこの議論が知識人の間で大きな関心と呼んだこと、にもかかわらず社会の表層には何ら影響を及ぼすこともなかったことは、ある意味では90年代前半を象徴するような出来事だった）だとすれば、90年代後半は「知への回帰」、たとえば一冊の気に入った本を探すといった、身近でささやかな、素朴で基本的な知への欲求が戻ってくるのではないかと、そんなことさえ感じさせてくれた（やや楽観的な感想かもしれないが）。前置きはこのくらいにして、早速そんな北京の本屋さんを紹介してみたいと思う。

### ▷ 鄒韜奮三聯圖書中心

今北京でどの書店がいいかと聞かれたら、まずここを勧めたい。昨年11月にオープンした、生活・読書・新知三聯書店の小売店舗。地上2階地下1階の大型総合書店。王府井大街をまっすぐ北上し五四大街と交わる交差点の西北角に中国美術館があるが、その東側向かい。一步店内に足を踏み入れると、その明るさ（南側の大きなガラス窓からも十分に採光していて、窓際の書架の本が陽に焼けて傷まないかと心配なほど）と広さ（通路のスペースも十分にとってある）、奥まで見渡せる開放的なディスプレイが、従来の暗くて窮屈な中国の書店のイメージを変え、期待を持たせてくれる。

1階は新刊・小説・教養・経営管理・実用・児童書等。従来の分類にこだわらず、まず需要の多いものをこのフロアーに持ってきている。たとえば文学関係は地下1階にあるのだが、売れ筋の流行小説・武俠小説・軍事小説等はこの階に置かれている。また、入口近くには週間ベストセラーの紹介コーナーや新刊書のコーナーがあり、思わず手に取ってみたいくなる趣向。わかりやすく分類された目の高さほどの書架には、本が見やすく並んでいる。広いカウンターでは会計と包装を同時に行う。商品を渡してもらうまで購入者が伝票を持ってレジまで往復するのが一般的な中国で、この方式を採用している店はまだ少数だ。そのカウンターでは、在庫をパソコンで検索してくれたりもする。これら消費者へのちょっとした親切（＝売るための努力）は、たとえば日本の書店なら当然のことなのだが、従来の中国の書店ではもっぱら消費者側に努力が要求されたからとても新鮮に思える。

2階は美術・建築・映画・演劇・音楽関係や文具等。美術関係が比較的充実している。また展示コーナーがあり、開店時には鄒韜奮の紹介展示をしていた。先日（1月31日）行ってみたら、シューベルト誕生200周年記念の音楽鑑賞会をやっていて、店内にシューベルトの歌曲が流れちょっと優雅な雰囲気だった。音楽学院の老教授かと思われる紳士が解説をし、若い人を中心に20人くらいが聞き入っていた。そう言えば最近、三聯書店から『愛楽』という『読書』の紙質を少し良くしたような装丁の雑誌（隔月刊）が創刊され、クラシック音楽愛好者に好評を得ているようだ。また、展示コーナーの一角に喫茶室が新設されていた。鑑賞会の最中だったので利用できなかったが、次回ぜひ試してみたいと思う。地下は文学・歴史・哲学・言語・自然科学および三聯書店出版の書籍コーナー等。専門書が中心。特に歴史関係が充実している。

\*美術館東街22号 ☎6400.1122-3058

▷中国書店・京味書楼／滬版図書中心／海王邨民俗館

95年4月、瑠璃廠の南、虎坊橋交差点の西北角に老舗中国書店の分店、京味書楼が開店した。その名の通り北京関係の書籍を重点的に揃えている。北京に来たからには一度は覗いてみたい本屋さんだ。また2階で、北京の文化人による「京味文化講演」を開催、講演者の豪華な顔触れ（文学関係では舒乙、鄧友梅、劉紹棠、陳建功等、また地理歴史学者の侯仁之、故宮博物院元副院長単士元、中国京劇院院長蘇移、第二代北京‘面人湯’湯夙国、国画家李燕、相声俳優常宝華等）で好評を博している。この講演会は開店以来96年1月初めまで毎週土曜の午前に計30回開催されたが、その後は不定期に3回行われただけでしばらく開かれなかった。残念に思っていたところ、今年1月（17日）から再開。藍蔭海（北京人民芸術劇院を昨年退職。劇作家）が、北京人芸45年の歴史を振り返りながら北京の話劇について語った。講演後、客席にいた‘叫賣大王’臧鴻（『城南旧事』『駱駝祥子』『末代皇帝』等、多くの映画・テレビの中で彼の‘叫賣声’が使われているらしい）が書店の人に請われて立ち上がり、自慢の喉を披露してくれた。藍蔭海の静かな語り口と対照的に、耳がガンガンするような大声だった。今後は月に1回程度のペースで続けていくという。無料。ただし定員は40名で、前々日の切符配布時には1時間前から列ができる。また講演の再開と同時に、2階に「京味書庫」が新設された。新旧の北京関係書籍を展示し、閲覧や複写などのサービスも提供する（有料）。決して大きくはないが、個性を打ち出して健闘している好感の持てる本屋さんである。

前門には、95年2月にやはり中国書店分店の滬版図書中心が開業した。こちらは上海の出版社の書籍を揃えている。人文・社会科学のほか、医学、美術関係の書籍も置く。

瑠璃廠海王邨（歩道橋の架かる交差点の東北角）の中国書店は、昨年改装されて品揃えも陳列もかなり良くなった。また、昨年春節時に中庭を改装して「海王邨民俗館」を開設。民俗史や北京書肆史を模型や写真等で展示してある。月曜を除く午後2時から5時まで開館、入場料3元。オープンの際は春節ということもあり、民俗芸能・工芸の実演や販売もあってたいそう賑やかだったが、先日行ってみたら訪れる人もなく、同じ中庭に設置された茶館では男性ふたりが暇そうに碁を打っていた。（今年の春節にはまた実演等があり少し活気が戻ったらしい。）

\*（京味書楼）瑠璃廠南新華街177号 ☎6303.5051

\*（滬版図書中心）前門大街80号 ☎6702.0783

\*（中国書店・瑠璃廠海王邨店）瑠璃廠東街115号 ☎6303.1797、6185

\*（海王邨民俗館）瑠璃廠廠甸胡同8号 ☎6303.7281

#### ▷風入松書店／博思書店

‘学人書店’の代表的存在。北京大学南門東側のビルの地下1階にあり、学院区の大学関係者を中心に好評を得ている。1フロアだがかなり奥ゆきがある。人文・社会科学関係の学術書や教養書を中心に自然科学、芸術、雑誌等も置く総合書店。通路に椅子が置かれていて、長時間立っていたり大型本を見たい時などありがたい。入口近くには喫茶コーナーもある。やはり会計と包装は同じカウンターで行う。また、一回に50元以上購入すると5%、累計1000元以上購入すると10%が年間を通して割引になる。経営者は北京大学教授。

今年1月には開店1周年を期に、市の中心部王府井に分店をオープンさせた。北京飯店から100メートル位北に歩いたところに新しく出来た商業ビルの2階。本店と変わらないくらいの奥行きのあるスペース。また建国門西の社会科学院東隣にある博思書店も分店。狭い店内に人文・社会科学と美術関係の本が並んでいる。いずれも割引カードは共通に使える。

- \* (本店) 海澱路46号北大資源西楼 ☎6262.5939、5940
- \* (王府井店) 王府井大街277号好友商厦 ☎6527.7121
- \* (博思書店) 建国門内貢院東街 ☎6513.7744-5608

#### ▷三味書屋

かつて個人経営の書店として海外にも報じられた。民族文化宮の向かい、通りから南へ入って2軒目。人文・社会科学等の書籍を置き‘学人書店’の先駆的存在とも言える。中央に椅子と机を置いてあるのが当時としては画期的で、よく学生風の若者が座って外国雑誌等をめくっていた。しかし、韜奮三聯図書中心や風入松書店のような大型書店が出来た今となつては魅力が薄らいだ感も否めない。2階の茶房は疲れた目と足を休めるのには最適。週末にはジャズ・コンサートや中国古典音楽会が催される。経営時間も夜10時半までと長い。

- \* 復興門内大街60号 ☎6601.3204

#### ▷新華書店／外文書店

王府井の新華書店はあたり一帯が再開発のために取り壊されてから、100mほど北の外文書店3、4階に間借りしている。しかしスペースも限られている上、品揃えも陳列も旧態依然としていて魅力は感じられない。花市新華書店(教育書店)や西四新華書店(西四交差点西北角。東北角の中国工商银行とともに趣のある外観)は、改装されて店内も明るくなり品揃えもよくなった。東四の作家書店(東四新華書店)は、最近は文学関係よりも工具書

と児童書の方が多くなってしまったが、かつて網布店だったという建物は歴史を感じさせる。昨年来、東の朝陽門から東四にかけて、さらに美術館付近まで再開発のための取り壊しが急ピッチで進み街並が一変してしまっただが、ここはまだ何とか残っている。また最近、百盛購物中心（復興門内大街）、藍島大廈（東大橋南西角）、当代商場（海澱路。向かいに人民大学出版社読者服務部もある）等ショッピングセンターの中にも新華書店が出店している。小説、児童書、実用書、工具書、あるいは贈答用の豪華本等が中心。

外文書店は語学教材等を探す人でいつも賑わっている。また、語学のほか音楽等のカセットテープやビデオテープおよび音響機器販売部門を併設しているところも多い。王府井外文書店（ビデオテープ販売店が隣接）が大きい。他に西単、東単、海澱図書城等。

\*花市新華書店 ☎6712.0216、0313 西四新華書店 ☎6611.2315  
作家書店（東四新華書店） ☎6404.0451、3110  
王府井外文書店 ☎6512.6903 西単外文書店 ☎6602.1700

#### ▷その他

万聖書園 \*（本店）海澱成府街60号 ☎6261.2799

\*（音楽庁店）六部口北新華街1号音楽庁内 ☎6605.0157

‘学人書店’のひとつ。本店は北京大学東門の近く。小さな書店だが、学術書が揃っていると研究者の支持も多い。音楽庁内の店舗はさらに狭く売店といった感じだが、音楽会の前に覗くのに便利。法政大学大学院生が経営。

五四書店 \*五四大街甲31号 ☎6401.2108

人文・社会科学と美術関係が中心。

商務印書館読者服務部 \*王府井大街36号 ☎6525.3913

\*瑠璃廠西街51号 ☎6304.4891

中華書局読者服務部 \*王府井大街36号 ☎6513.4657

古籍書店（中華書店） \*瑠璃廠西街34号 ☎6303.2104

百科書店 \*阜成門北大街17号 ☎6834-1269

中国大百科全書出版社の販売部。中国大百科全書はセットでないと販売しない書店も多いが、ここはもちろんバラで買えるし種類も揃っている。近くに魯迅博物館がある。

中国地図出版社門市部 \*白紙坊西街3号 ☎6352.9403

北京市報刊零售公司 \*永安路121号 ☎6303.8146

郵便局で取り扱っていない刊行物の定期講読等。店頭においてあるバラ売りの刊行物は種類が限られている。置いてないものを取り寄せてもらえるのかと聞いたが答えはNOだった。

音楽書店 (外文書店) \*東安門大街16号 ☎6513.5887

電影書店 \*西四北大街247号 ☎6602.2251

考古書店 \*王府井大街27号 ☎525.2905

文物出版社 (門市部、郵購部) \*琉璃廠西街40号 ☎6304.4886

(読者服務部) \*五四大街29号 ☎6401.5577-288

人民美術出版社読者服務部 \*北総布胡同32号 ☎6522.9381

中国法律図書公司 \*西総布胡同44号 ☎6512.0887、0889

愛知書店 \*王府井大街22号首都劇場院内 ☎6526.1678

人文・社会科学、芸術等。観劇の前の時間調整に。

東方書店 \*地安門大街146号 ☎6401.6640

書画の教材や道具。琉璃廠よりも庶民的。中央実験話劇院が近い。

海澱図書城 \*海澱西大街

北京大学の西南。長さ100mくらいの道の両側に100以上の書店や出版社販売部が単独であるいはビルの中に複数で出店している。当時(確か93年初め)としては画期的だった。

科苑書城 \*復興路15号 ☎6851.5544

中

国科学技術情報研究所地下1階。北京医薬衛生書店、今古文化書店、東方書店等が出店している。ビルの前にも露店が並ぶ。

北京図書批發市場 \*金台路

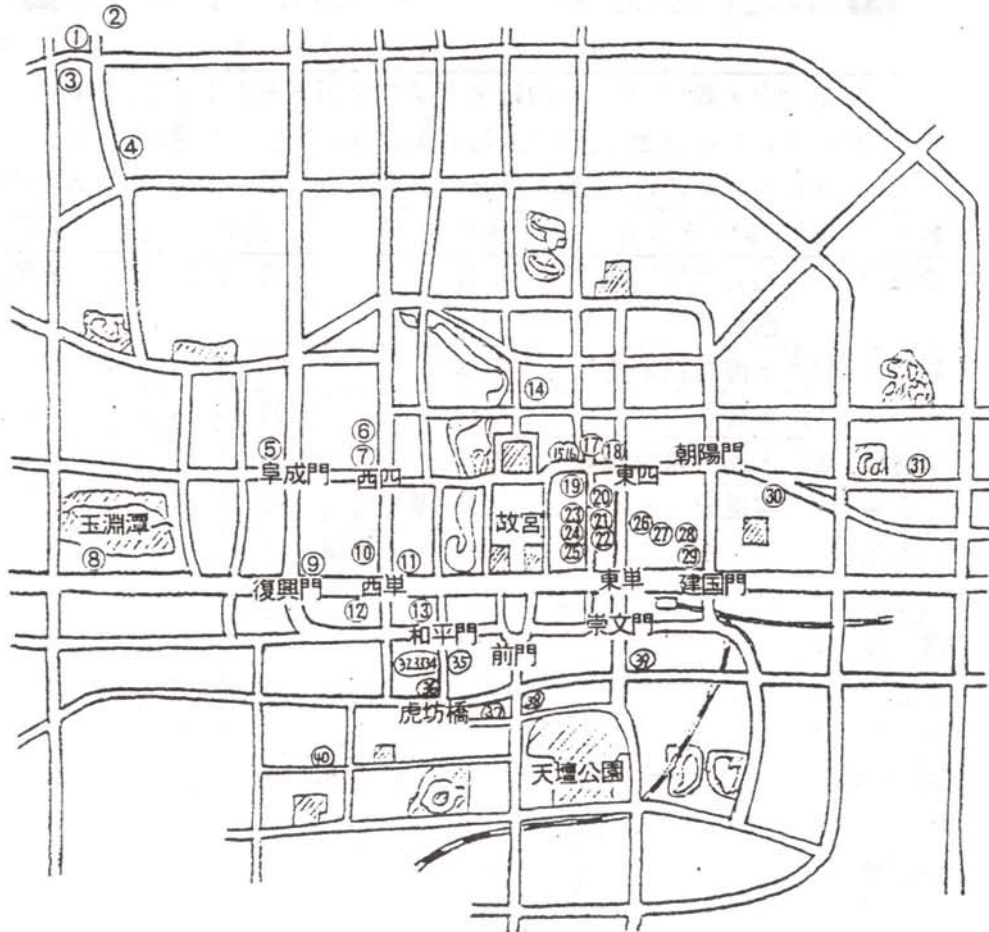
長さ6、70mくらいの道の両側に各出版社や書店の看板を掲げた小屋が数十。看板とは裏腹に露店の本屋(書攤兒)に並んでいるような流行本のみを扱っている書店がほとんどだが、思わぬ拾いものをすることもある。本によって5~30%くらい割り引きしてくれる。

こうしていくつか挙げてみただけでも、北京は書店の数も種類も多いと改めて感じる。各出版社の販売部や個人経営の書店等をこまめに見て回れば、特色のあるよい書店がまだあるに違いない。また、売れている小説や新聞・雑誌を探すなら露店の本屋の他に地下鉄の売店も狙い目だし、書画集は琉璃廠のほか中国美術館の中の販売部も充実している……などと言いつつきりが無い。全体的にサービスも向上してきた。ただし在庫のない本の取り寄せにはまだ消極的。個々の書店だけの問題ではないのかもしれないが。なお西单交差点東に、首都図書大厦が現在建設中だ。7、8階くらいはかなり大きなビル。完成すれば、北京の書店巡りにまた新たなチェック・ポイントが加わることだろう(帰国予定も近いのでオープンは見られそうもないのが少し残念)。

1997.2.10

(附)

北京の書店 (略図)



- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| ① 風入松書店 (本店)        | ②① 商務印書館讀者服務部     |
| ② 万聖書園 (本店)         | ②② 中華書局讀者服務部      |
| ③ 海澱圖書城             | ②③ 音楽書店 (外文書店)    |
| ④ 当代商城 (新華書店)       | ②④ 王府井外文書店 / 新華書店 |
| ⑤ 百科書店 (中国大百科全書出版社) | ②⑤ 風入松書店 (王府井店)   |
| ⑥ 電影書店              | ②⑥ 中国書店 (東單店)     |
| ⑦ 西四新華書店            | ②⑦ 中国法律圖書公司       |
| ⑧ 科苑書城              | ②⑧ 人民美術出版社讀者服務部   |
| ⑨ 百盛購物中心 (新華書店)     | ②⑨ 博思書店           |
| ⑩ 西單外文書店            | ③⑩ 藍島大厦 (新華書店)    |
| ⑪ 首都圖書大厦 [建設中]      | ③① 圖書批發市場         |
| ⑫ 三味書屋              | ③② 商務印書館讀者服務部     |
| ⑬ 万聖書園 (音楽庁店)       | ③③ 文物出版社門市部、郵購部   |
| ⑭ 東方書店              | ③④ 古籍書店 (中国書店)    |
| ⑮ 五四書店              | ③⑤ 中国書店 / 海王邨民俗館  |
| ⑯ 文物出版社讀者服務部        | ③⑥ 京味書樓 (中国書店)    |
| ⑰ 鎔奮三聯圖書中心          | ③⑦ 北京市報刊零售公司      |
| ⑱ 作家書店 (東四新華書店)     | ③⑧ 滬版圖書中心 (中国書店)  |
| ⑲ 考古書店              | ③⑨ 花市新華書店         |
| ⑳ 愛知書店              | ④⑩ 中国地圖出版社門市部     |